

本巣市

耕作放棄地に 黄金色の実り

J Aと企業が稲刈り



稲刈りを楽しむ参加者＝本巣市根尾門脇

活動として参加している。プロジェクトの実施は2年目。

参加者は、5月に田植えをした約2200平方メートルの田んぼで、地元農家やJ A職員の指導を受けながら、かまで稲を刈った。今年は日照不足で収量は少なめだったが、害虫が少なく状況はよかった。新米約700キログラムは参加者で分ける。

J Aぎふと、岐阜、本巣両市の企業が、本巣市根尾門脇の耕作放棄地を水田として再生する共同プロジェクト「農山村のふるさとづくり」の稲刈りが9日、現地で行われた。参加者約150人が爽やかな汗を流し、秋の恵みに感謝した。

J A側は、根尾川源流域にある耕作放棄地の再生や復活が目的。企業側は製造業やIT関連など7社が、CSR(企業の社会的責任)

参加企業の一つ、業務用ソフトウェア開発のテクノア(岐阜市)は、家族連れを中心に約30人が参加。山崎耕治社長は「社員や家族同士が、自然の中で楽しみながら交流を深めることができる有益な取り組み。CSRだけでなく、採用時のPRにもなる」と手応えを話していた。

(舌間隆博)